

早稲田大学 国際教養学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文2問、古文1問)
難易度	昨年よりやや難化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「道化と諷刺」に関する文章。出典：坂口安吾の文章による。

《本文字数：約 2200 字＝昨年より約 400 字増加。設問数：6＝昨年より3問減少》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【漢字】1のア「投宿」、イ「粛清」、ウ「私淑」は語彙力も問われていると考えてほしい。
問二・A	標準	【空欄補充】空欄Aの直後の説明は、直前を評価する表現となっていることから判断する。イならば、後に「～べし」があるのが自然だろう。
問二・B	易	【空欄補充】空欄Bの直前の理由から、直後の当然の結果を導く語が入る。
問二・C	やや易	【空欄補充】空欄Cの直後の「対象の否定」は、直前の「揶揄」の言い換えである。
問三	標準	【空欄補充】空欄Dの6行後の「休みを欲しない」と、傍線aの直前の「道化は純粋な休みの時間だ」より判断する。
問四	やや難	【傍線部説明・語彙】ウと迷うが、傍線aの直後の「底をはたく」という言い換えから判断する。
問五	標準	【誤文抜き出し】最後の段落中の傍線のない文との整合性から考える。
問六	やや易	【内容合致】ア、ウ、オはそれぞれ後半の内容が誤り。カは本文にない。

(二) 評論文。「近代における死の視覚化」に関する文章。出典：高山宏の文章による。

《本文字数：約 2200 字＝昨年より約 400 字増加。設問数：7＝昨年と同じ》

問七	易	【空欄補充】空欄の前後の文脈から容易に判断できる。
問八	やや難	【傍線部説明】傍線1の4～3行前より「究極的な無意味」とは「生」の無意味さを意味する。ウの「死を美化する」は第三段落の2～3行の言い換え。アは「生」がない。イは「意識化」が誤り。オの「英雄の物語」は具体例に過ぎない。
問九	標準	【語句の意味】文脈だけからでは判断ができない。語彙力が問われている。
問十	標準	【傍線部説明】「視覚のヘゲモニー」とは近代における「視覚中心主義」のこと。「結託」の意味がわかれば難しくない。イは「大衆化する」が誤り。
問十一	標準	【空欄補充】空欄Bの直後の「～の背後で」が、1行後の「男性中心的な」との対比を意味していることが読み取れたか。
問十二	やや難	【傍線部理解】アの「多様な事象」は「世界」のことであり、その「一元化」は傍線4の2行後の「何も死ぬのは人間ばかりではない」の言い換え。
問十三	やや易	【内容合致】イは第二段落の2～4行目、オは第六段落4～5行目に合致する。

(三) 古文。出典：『増鏡』。

《本文字数：約 1150 字＝昨年より約 50 字増加。設問数：7＝昨年と同じ》

小問	難易度	コメント
問十四・1	やや難	【文脈把握】文章全体から傍線部の「覚え」は「評判」ではなく「寵愛」だと分かる。
問十四・2	易	【古文単語】「いとほし」「ゆくりなし」は基本単語。
問十五	易	【文法問題】断定はaとb。他は形容動詞の活用語尾。
問十六	やや易	【文脈把握】傍線部の「あたらし」、及び、1行前の「さぶらふ人々」から判断する。
問十七	標準	【主語判定】この場面で御簾の中にいるのは誰か？
問十八	やや難	【空欄補充】空欄Aまでの内容から判断する。
問十九	標準	【空欄補充】直前の「道芝の」、及び、直後の「我や消なまし」から判断する。「露」は、涙やはかなく消えやすいものを表現する際にも用いられる。
問二十	やや難	【文脈把握】傍線部までの内容、及び、傍線部の「契り」の語義から判断する。

〔総合コメント・今後の指針〕

四年連続で出題されていた大問一の小説がなくなり、代わりに評論文が出題された。また、昨年と比べてすべての大問の字数が増加した。

大問一は、「道化と諷刺」についての評論文。基本的な設問がほとんどなので、高得点をとることが望まれる。問四は選択肢の語意を正確に把握できていたかがポイント。いわゆる評論用語だけでなく、一般的な語彙についてもふだんから意識しておく必要がある。

大問二は、「近代における死の視覚化」についての評論文。本文はやや読みにくい、「視覚化」は入試頻出のテーマの一つで、多くの学校の教科書や予備校のテキストでも採り上げられている内容なので、それほど苦戦しなかったであろう。本校でも、『◆早大現代文◆③④PART II』の〔十二〕、『ハイレベル現代文／早大難関大現代文 PART II』の〔十二〕、直前講習テキスト『早大の現代文』の〔二〕などで、「視覚化」の問題について扱った。

大問三の古文は『増鏡』が出題された。昨年は『大鏡』だったので、二年連続で歴史物語からの出題となる。本学部の古文は昨年より難化傾向にあるものの、基本をきちんと身につけていれば確実に高得点が狙える。単語と文法を地道に覚えつつ、省略されている語句を補いながらじっくり読む、という練習を続けければよい。